御草庵跡

日蓮が鎌倉を離れて亡命した身延山の屋敷跡です。1274 年から 1282 年に亡くなるまで、波木井実長（1222-1297）の庇護を受けてここで暮らしました。

日蓮は、最後の 8 年間をここで過ごし、法華経を広く読み、その経典のほとんどを御草庵で執筆しました。日蓮は、この地で教祖の教えを作り上げました。

この草地を囲む低い石垣は、姫路の酒井公の妻である顕寿院殿夫人の寄進により建てられたものです。かつて日蓮が住んでいた小屋があった場所です。また、日蓮が創建した久遠寺の発祥の地とされています。

御草庵跡の近くには、日蓮の遺灰の一部を納めている御廟所があります。これは日蓮の葬儀の後、遺灰を運んできた墓です。大理石でできた八角形の塔です。日蓮の遺灰は、久遠寺の御真骨堂とこの塔の両方に納められています。塔には日蓮の「南無妙法蓮華経」と刻まれています。